

## 分科会要旨

### 分科会 A 1、A 2

【テーマ】「いまさら聞けない EBM の基礎」

【要旨】

昨年の 9 月、来日されたマクマスター大学のマッキボン先生を迎え、JMLA 主催で EBM セミナーが開かれたのは記憶に新しいところです。

EBM: Evidence Based Medicine=根拠に基づく医療がホットワードとなり、各地で勉強会が開かれていた 2000 年代前半から見ると、昨今では医学情報に携わる職種に向けた EBM 勉強会はめっきり減ったように思われます。

2000 年代の初めに EBM について勉強をしたあなた、その記憶は錆びついていませんか？

最近医学情報に携わる仕事を始めたあなた、EBM について本で読んでみたものの、難しいと投げ出していないですか？

本分科会では医学図書館員にも多くのファンを持つお二人の講師に、EBM のイロハを講義していただきます。午前中は EBM を理解するための基礎的な講義、午後は参加者が実際に課題に取り組むワークショップの 2 部構成となっています。

まずは「統計学入門」。

統計学の考え方はさまざまな科学的思考において大きな柱の一つです。数学の中でも統計学、確率は大の苦手、という方にもわかりやすく統計学の考え方についてお話しいたきます。緒方先生は協会発行の「統計の基礎 保健学・医学・生物学における統計学入門」の著者でもあり、本書の理解にも役立つことと思います。

次に「医療情報を見極める」。

医学図書館員には、より質の高い医学情報を医療従事者や研究者、患者や市民に提供することが求められています。どのように探し出し評価するのか、EBM の基礎についてお話しいたきます。

午後はワークショップ。

「退屈はさせません。眠る時間は与えません。でも、心配とも緊張とも無縁です。」講師の先生の力強いお言葉を頼りに自ら課題を解いていくワークショップです。

医学情報を取り扱ううえで基本の考え方となる EBM、この機会にぜひおさらいしましょう。

【司会】

愛知県がんセンター図書室

安田 多香子

【講師】

A 1 (午前)

国立保健医療科学院研究情報支援研究センター長

緒方 裕光

「いまさら聞けない EBM の基礎：統計学入門」

倉敷中央病院総合診療科主任部長

福岡 敏雄

「いまさら聞けない EBM の基礎：医療情報を見極める」

A 2 (午後)

倉敷中央病院総合診療科主任部長

福岡 敏雄

ワークショップ「いまさら聞けない EBM の基礎：医療情報を見極める」

【コーディネーター】

国立保健医療科学院図書館

泉 峰子

## 分科会 B

【テーマ】「コンソーシアム連携の可能性」

【要 旨】

日本での電子資料契約に関する図書館コンソーシアムは、電子ジャーナルの登場とともに、雑誌価格高騰問題の解決策のひとつとして誕生した。そこには図書館が出版社と個別に交渉するのではなく、契約する図書館が集まってその規模を示すことで、価格高騰を抑制させる狙いがあった。コンソーシアム提案は、図書館にとっては個別契約より有利な条件で契約することができ、とくに契約 1 年目にその効果を実感できる。しかし 2 年目以降は、コンソーシアム提案そのものが値上がりするため、価格高騰を抑制する効果を感じられないのが現状である。加えて購読タイトル・規模の維持を条件とさせられるため、不要になった雑誌についても契約を続けなければならないなど、ニーズと契約に齟齬も生じている。このようにみると、コンソーシアムは、今の図書館にとってなくてはならないものではあるが、決して満足いく状況にあるとはいえない。どのコンソーシアムも、出版社・代理店と交渉をしているが、それぞれの会員にとってよりメリットのある提案を引き出すためには、「変化」や「新しい仕組み」を必要としているのではないだろうか。

そこで本分科会は、今後のコンソーシアムのあり方として「連携」に焦点を当て、JMLA/JPLA コンソーシアム、JUSTICE、KMLA から話題提供をしてもらうこととした。まずは各々のコンソーシアムの現状と抱える課題について報告する。続いて、将来におけるコンソーシアム間の連携の可能性について、それぞれのビジョンを紹介してもらう。3 団体の報告の後は、パネルディスカッションを行う。会場からも忌憚ない意見をもらい、コンソーシアム担当者とは会場とでビジョンを共有できる場としたい。

「連携」といっても、単なる意見交換から交渉の一本化まで、いろいろなレベルが考えられる。各々のコンソーシアムが考える「連携」のレベルに差があることは間違いない。その差を越えることができない壁とみて諦めるのか、それともその差を認識したうえで「連携」に向けたきっかけとするのか、会場といっしょに考えたい。

【座 長】

アステラス製薬株式会社、JPLA 雑誌問題検討委員会委員長

宮内 洋一

【話題提供者】

日本医科大学中央図書館、JMLA 雑誌委員会委員長

富田 麻子

蔚山大学校峨山医学図書館

梁 承浩

大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)

未定

【コーディネーター】

東邦大学医学メディアセンター、JMLA 雑誌員会担当理事

児玉 閲

## 分科会C

【テーマ】「公正な科学研究を目指して：発表倫理と論文剽窃検知ツール」

### 【要 旨】

近年、ねつ造、改ざん、盗用に加え、重複発表や不適切なオーサーシップなど、論文不正が多く見受けられるようになった。生命科学領域において、研究成果が社会に与える影響は大きく、不正への対策が求められる。科学研究活動は、発表なくして完結しない。それゆえに、発表倫理 (publication ethics) は研究の公正さを総合的に検証する視点となり、さらに自然科学だけでなく人文科学や社会科学領域へも応用できる幅広さを持っている。

これまで、研究倫理はヒトや動物を対象にした生命倫理学 (bioethics) として検討され、1980年代になり、研究者自身の行動に焦点をあてた研究者倫理や、研究行動の公正さという視点が加えられた。理由は、研究者の不正行為事件が続発し、研究を行う主体の公正さが問われるようになったからである。発表倫理教育の主な内容は、オーサーシップの正しい理解、レフェリーシステムの匿名性の再考、出版バイアスとネガティブデータの扱い、不適切な引用などであり、医学図書館における教育サービスプログラムとしても展開できる。また、論文不正を考える際、産学連携や成果主義の進展といった、研究者をめぐる研究環境の変化も視野に入れる必要がある。

本分科会では論文発表における不正をテーマとし、発表倫理の枠組みを示し論点を整理した後、研究者、出版者が取り得る不正防止策として、盗用への対処方法として機械的に全文の検索を行う CrossCheck の導入事例の報告を行う。発表倫理と不正防止策の理解を通し、公正な科学研究を目指し、論文不正の対策に活かしていくことができる。

### 【座 長】

科学技術振興機構 知識基盤情報部

加藤 斉史

### 【話題提供者】

愛知淑徳大学人間情報学部

山崎 茂明

日本疫学会

橋本 勝美

大学関係者

交渉中

### 【コーディネーター】

科学技術振興機構 知識基盤情報部

加藤 斉史